

理学療法士 専門試験問題

[No. 1] 運動神経線維のみの脳神経はどれか。

1. 嗅神経
2. 三叉神経
3. 顔面神経
4. 迷走神経
5. 副神経

[No. 2] 肺の解剖について正しいのはどれか。

1. 左肺には3本の葉気管支がある。
2. 肺の栄養血管は気管支動脈である。
3. 区域気管支は左右5本ずつある。
4. 細気管支まで軟骨が存在する。
5. 左右の肺には約5000万個の肺胞が存在する。

[No. 3] ホルモンの分泌で正しいのはどれか。

1. エリスロポエチンは骨髄から分泌される。
2. グルカゴンは膵臓から分泌される。
3. バソプレシンは副腎皮質から分泌される。
4. アルドステロンは副腎髄質から分泌される。
5. エストロゲンは精巣から分泌される。

[No. 4] 骨格筋で正しいのはどれか。

1. 健常成人では体重の約 10%を占める。
2. 赤筋線維はミトコンドリアの量が少ない。
3. 筋小胞体から放出された Ca^{2+} がトロポニンに結合する。
4. 神経筋接合部での興奮の伝達は双方向性である。
5. 低負荷の運動では白筋線維が活性化しやすい。

[No. 5] 評価尺度で誤っているのはどれか。

1. 血圧は比例尺度である。
2. 気温は間隔尺度である。
3. Brunnstrom stage は順序尺度である。
4. 血液型は名義尺度である。
5. 年齢は間隔尺度である。

[No. 6] 国際生活機能分類 (ICF) の構成要素ではないのはどれか。

1. 参加
2. 活動
3. 心身機能・身体構造
4. 環境因子
5. 日常生活動作

[No. 7] Alzheimer 型認知症について誤っているのはどれか。

1. 記憶障害
2. 物盗られ妄想
3. パーキンソニズム
4. 記銘力障害
5. 見当識障害

[No. 8] 急性炎症の初期に見られるのはどれか。

1. 線維化
2. 血管新生
3. 好中球遊走
4. リンパ球遊走
5. 肉芽組織形成

[No. 9] 空気感染予防が必要なのはどれか。

1. MRSA
2. 麻疹ウイルス
3. インフルエンザウイルス
4. 風疹ウイルス
5. 百日咳

[No. 10] 胃全摘出術後の障害として誤っているのはどれか。

1. ダンピング症候群
2. 骨代謝障害
3. 血小板減少
4. 鉄欠乏性貧血
5. 逆流性食道炎

[No. 11] 頸髄損傷患者について誤っているのはどれか。

1. 頸髄損傷者は運動麻痺により肩甲—上腕リズムが崩れる。
2. 尿意の代償として頭痛がみられる。
3. 麻痺域からの刺激が発作性に低血圧を誘発する。
4. 日常生活上で自律神経過反射を尿意や便意の代償として活用している。
5. 膀胱直腸障害と褥瘡は合併症として頻度が高い。

[No. 12] 膝離断性骨軟骨炎について、誤っているのはどれか。

1. 10歳代のスポーツをする子供に好発する。
2. 男子より女子に多く発症する。
3. 症状として、膝の疲労感や脱力感が出現しやすい。
4. 10歳前後の軽症例では保存療法を選択する。
5. ときにロッキングが出現する。

[No. 13] 転移性脊椎腫瘍について、正しいのはどれか。

1. 誘因の無い病的骨折はみられない。
2. 80歳以上の高齢者に好発する。
3. 感覚障害、筋力低下はきたさない。
4. MRI、PETなどで腫瘍の存在が確認される。
5. 生命予後が良い。

[No. 14] 次の異常歩行の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 踵打歩行—亜急性脊髄連合変性症
2. 鶏歩—脊髄瘍
3. 間欠跛行—脊髄小脳変性症
4. はさみ脚歩行—筋ジストロフィー
5. 酩酊様歩行—腰部脊柱管狭窄症

[No. 15] がん患者の緩和ケアにおけるリハビリテーションについて誤っているのはどれか。

1. 肺がんで呼吸困難の症状がある場合は呼吸介助も考慮する。
2. 患者の意思を尊重しながらリハビリプログラムを考える。
3. 病名の告知が前提となるわけではない。
4. リンパ浮腫が増強している場合のリハビリテーションは禁忌である。
5. 疼痛に対して温熱療法を選択することもある。

[No. 16] 発育性股関節形成不全について誤っているのはどれか。

1. 大腿骨頭が骨盤に対して後方へ脱臼することが多い。
2. 乳児期ではリーメンビューゲル装具を治療として用いることが多い。
3. 二次的な変形性股関節症になることはない。
4. 本疾患の診断テストとして開排制限の有無を診る。
5. リーメンビューゲル装具では股関節の伸展のみを制限する。

[No. 17] 僧帽弁閉鎖不全症について誤っているのはどれか。

1. 労作時呼吸困難を生じる。
2. 起坐呼吸がみられる。
3. 胸部 X 線像にて右室・右房拡大がみられる。
4. 心房細動 (AF) を認める。
5. 外科的治療として僧帽弁形成術、僧帽弁置換術を行う。

[No. 18] バランスを評価できるのはどれか。

1. Functional reach test
2. Jackson test
3. Bragard test
4. Kenp test
5. Apley test

[No. 19] 全身持久力トレーニングの長期効果について正しいのはどれか。

1. 骨格筋毛細血管密度の減少。
2. 最大酸素摂取量の低下。
3. 心拍出量の低下。
4. 動静脈酸素含有量較差の増加。
5. 血圧の上昇。

[No. 20] 高齢者の肺炎の特徴として誤っているのはどれか。

1. 高熱にならないことが多い。
2. 誤嚥性肺炎が多い。
3. 肺底部の病巣が多い。
4. 咳反射の亢進が見られる。
5. 死因となる例は増加傾向である。

[No. 21] 脳卒中について誤っているのはどれか。

1. 脳卒中再発の予測因子で最も確率が高いのは大血管のアテロームを有していることである。
2. 脳卒中後の心血管イベントを予測する因子は心不全、糖尿病、クレアチニン高値、重症脳卒中、心電図QT延長もしくは心室性期外収縮である。
3. 脳卒中後は誤嚥性肺炎を予防するために早期の水飲みテストは選択しないことが多い。
4. 脳卒中において深部静脈血栓症は高頻度に発生し、危険因子を複数もつ症例では、十分な注意が必要である。
5. 脳卒中後の尿路感染症を予防するためには膀胱留置用カテーテルの早期抜去を試みるほうが良い。

[No. 22] 骨粗鬆症患者について誤っているのはどれか。

1. 腰背部痛や身長低下がみられる。
2. X線像で、骨梁の不明瞭化がみられる。
3. 食事療法・運動療法は予防・治療に効果的である。
4. 海綿骨より皮質骨は骨代謝回転が速い。
5. 椎体圧迫骨折による椎体変形（楔状椎・魚椎・扁平椎）がみられる。

[No. 23] 呼吸リハビリテーションの評価項目について適当でないのはどれか。

1. 栄養評価
2. 6分間歩行テスト
3. 経皮的酸素飽和度 (SpO₂)
4. 握力
5. CKD ステージ分類

[No. 24] 物理療法で約 2,500MHz の周波数を治療に用いるのはどれか。

1. 低周波療法
2. 極超短波療法
3. 干渉波療法
4. 超音波療法
5. 超短波療法

[No. 25] 循環機能障害について正しいのはどれか。

1. すべての不整脈は心不全、失神発作、突然死をきたす危険なものである。
2. 呼吸に伴う高周波の心拍変動性は自律神経機能の指標とはならない。
3. 心筋梗塞急性期（発症 48 時間以内）は NYHA の分類に従い対応する。
4. 心筋梗塞亜急性期では期外収縮が 4 連発以上で治療を考慮する。
5. 運動療法による不整脈減少の機序に迷走神経緊張の亢進がある。

[No. 26] ギランバレー症候群でみられやすいのはどれか。

1. 誤嚥
2. 温痛覚脱失
3. 閉塞性換気障害
4. 安静時痛
5. 深部腱反射亢進

[No. 27] 運動療法を中止すべき状態はどれか。

1. 1回/分の期外収縮の出現。
2. 運動時心拍数が140/分を超える。
3. 運動時拡張期血圧が安静時から10mmHg上昇する。
4. 運動時収縮期血圧が安静時から30mmHg上昇する。
5. 頻呼吸（25回/分以上）

[No. 28] 造血幹細胞移植患者の運動療法の禁忌とならないことはどれか。

1. 血小板数 20,000/ μ l 以下
2. 37°Cの発熱
3. 出血
4. 疼痛
5. ヘモグロビン濃度 8g/dl 以下

[No. 29] 熱傷の部位と起こりやすい拘縮予防の肢位で適切な組み合わせはどれか。

1. 膝窩部 — 膝関節屈曲
2. 前胸部 — 肩関節内転
3. 下腿後面 — 足関節底屈
4. 肘窩部 — 前腕回内
5. 前頸部 — 頸部伸展～過伸展

[No. 30] 脳卒中ガイドライン 2021 年版で推奨されている評価法において誤った組み合わせはどれか。

1. Brunnstrom Stage — 中枢神経麻痺の運動パターンによる評価法。
2. modified Ashworth Scale — 筋緊張の亢進を他動運動での抵抗感で分類。
3. SIAS — 意識、瞳孔反射、注視、視野、顔面神経、上肢運動、下肢運動、足底反射、失調、感覚、無視、構音、失語症を評価する。
4. JSS — 意識、言語、無視、視野、眼球運動、瞳孔、顔面麻痺、足底反射、感覚、運動を評価する。
5. FIM — 運動項目 13 項目、認知項目 5 項目からなり、世界的に普及している評価法。

[記述問題 1]

高血糖による口渇、多飲、多尿、体重減少などの症状があり受診し、2 型糖尿病と診断された患者に対して、理学療法士としての指導内容を述べなさい。

[記述問題 2]

高齢者大腿骨近位部骨折術後の患者には、再発予防の目的で転倒予防の説明が大切になる。高齢者が転倒する要因を内的要因と外的要因に分けて述べなさい。

[記述問題 3]

アテローム血栓性脳梗塞の危険因子と好発部位について述べなさい。

[記述問題 4]

視覚情報が入力され随意運動が行われるまでの経路を、「葉」または「野」を用いて述べなさい。